

平成22年度

帯広畜産大学大学院畜産学研究科
修士課程・博士前期課程学生募集要項
(国際協力特別選抜)

目 次

1 趣 旨	1
2 募 集 人 員	1
3 出 願 資 格	2
4 出 願 手 続	3
5 入学者選抜方法	4
6 試験期日及び試験場	4
7 障害等のある志願者との事前相談	5
8 合 格 発 表	5
9 入 学 手 続	5
10 個人情報 の 取 扱 い に つ い て	5
◎ 帯広畜産大学大学院畜産学研究科修士課程・博士前期課程案内	6

特別支援制度について

実務経験を有する国際協力に意識の高い人材の輩出及び国際協力に資する人材育成サイクルの確立を目指すため、入学者には、授業料相当額（月額5万円）の奨学金を貸与します。

奨学金の貸与は、2年間を限度とし、1年後の成績等の総合評価によっては貸与を停止する場合があります。

なお、修士課程・博士前期課程修了後、国際協力関係の業務に従事した場合は、貸与した奨学金の返還を免除します。

1 趣 旨

本学では、獣医農畜産分野で我が国の国際協力に資する人材を育成するために、海外でのボランティア活動や国際協力の実務を経験した者に門戸を開き、本学が展開する高度な専門職業人教育を提供するため、大学院畜産学研究科に国際協力特別選抜を設置し、学生募集を行います。

2 募 集 人 員

専攻名	コース名	募集人員
		国際協力特別選抜
畜産生命科学専攻	家畜生産科学コース	若 干 人
	環境生態学コース	
食品科学専攻	食品加工・利用学コース	若 干 人
	食品機能科学コース	
資源環境農学専攻	環境植物学コース	若 干 人
	農業環境工学コース	
	農業経済学コース	
畜産衛生学専攻	動物医科学コース	若 干 人
	食品衛生学コース	
	環境衛生学コース	

3 出願資格

(1) 次の①に該当し、かつ i ～viiiのいずれかに該当する者

- ① 平成22年3月までに、2年以上の海外ボランティア活動又は国際協力経験がある日本国籍を有する者
- i 平成20年3月以前に大学を卒業した者
 - ii 平成20年3月以前に学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - iii 平成20年3月以前に外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - iv 平成20年3月以前に外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - v 平成20年3月以前に我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
 - vi 平成20年3月以前に専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
 - vii 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - viii 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達したもの

注1. viiiで出願する者は、下記の「出願資格の認定」を参照してください。

注2. 大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において大学教育を修了し出願する場合には、出願に先立って出願資格審査を行いますので、(2)の「出願資格の認定」を参照してください。

(2) 出願資格の認定

下記の書類を整え、平成21年11月30日(月)までに提出してください。

なお、郵送の場合は必ず速達書留としてください。

提出書類	・入学資格認定申請書（本学が定める様式） ・最終学歴の卒業（修了）証明書 ・成績証明書（履修状況を証明する書類） ・研究歴証明書（研究期間、研究内容は必ず記載） ・研究成果資料
提出先	帯広畜産大学 教育研究協力部入試課入学試験係 〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地

4 出願手続

(1) 出願書類等

① 出願書類

出願書類等		摘 要
1	入学願書 受験票 写真票	・*印欄以外の所定の欄はすべて記入してください。 ・写真（縦4cm横3cm）は、出願前3か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので、裏面に志望専攻名・氏名を記入の上、写真票の所定の欄にはってください（受験時に眼鏡を使用する者は、必ず眼鏡を着用して撮影したものにしてください。）。
2	志願理由書	・大学院を志願する理由，研究計画及び将来どのように大学院で学んだことを生かしたいか，経歴を含めてA4版用紙2枚（任意様式）に英文でまとめること。（注1）
3	卒業証明書	
4	成績証明書	・厳封したものを提出してください。
5	あて名票 （合格通知書送付用）	・本学所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
6	受験票送付用封筒	・本学所定の封筒（小）に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
7	推薦書	・海外ボランティア又は国際協力活動などを実際に従事した機関・団体からの推薦書（任意様式）
8	国際協力活動 期間証明書	・海外ボランティア又は国際協力活動などを実際に従事した機関・団体からの証明書（任意様式）
9	海外活動報告書	・海外ボランティア又は国際協力活動などの内容，その他特筆できる事項についてA4判用紙2枚（任意様式）にまとめること。

注1. 志願理由書は，英文でタイピングしたものを提出してください。

② 検定料

30,000円

本学所定の払込取扱票により，検定料30,000円を払込期間内に最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行から払い込んでください。

払い込み後，「振替払込受付証明書（お客様用）」（日附印が押印されたもの）を出願書類の所定の場所にはって提出してください。

なお，郵便局・ゆうちょ銀行の窓口取扱いは通常平日は16時まで，土・日曜及び祝日は休業ですのでご注意ください。

検定料払込期間 : 平成22年12月24日(木)から平成22年1月8日(金)

③ 出願の留意事項

1) 受理した検定料は、次の場合を除き返還することができません。

検定料を振り込んだが帯広畜産大学に出願しなかった（出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合又は検定料を誤って二重に払い込んだ場合には、払い込んだ者の申し出により、当該検定料相当額を返還します。

返還の申し出は、速やかに行ってください。

※ 返還に関する問い合わせ先 帯広畜産大学 入試課入学試験係 TEL 0155-49-5321

2) 検定料が払い込まれていない場合や「振替払込受付証明書」に郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が押印されていない場合は出願を受理できません。

(2) 出 願 期 間

平成22年1月4日(月)から平成22年1月8日(金)まで（郵送の場合も**1月8日(金)必着**とします。）

(3) 出 願 方 法

出願書類は、一括して本学所定の封筒（大）若しくは角型2号の封筒に入れ、持参又は郵送してください。

① 持参の場合

受付時間は、8時30分から17時00分までとします。

② 郵送の場合

必ず「**速達書留**」扱いにし、**平成22年1月8日(金)17時00分必着**とします。

なお、出願期限後に到着した出願書類等は受理しないので、郵便事情等を考慮して余裕を持って発送してください。

(4) 出願書類等の提出先

11ページに記載してあります。

なお、出願書類等は、返還することができません。

5 入学者選抜方法

面接、推薦書、成績証明書、志願理由書及び海外活動報告書の内容を総合して行います。

ただし、海外勤務の事情で面接日に面接ができない者については、平成21年11月30日（月）までに申し出願います。

本学で、別途協議のうえ、面接方法についてご連絡しますので、連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）を併せてお知らせ願います。

6 試験期日及び試験場

実 施 期 日	科 目 等	時 間	試 験 場
平成22年2月8日（月）	面 接	10:00～	帯広畜産大学

※ 平成22年2月5日（金）10時までに試験場案内図を受験者入口（総合研究棟I号館玄関）に掲示しますが、試験室内に入ることはできません。

7 障害等のある志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障害等のある者については、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願前に本学と相談を行ってください（日常生活において、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も試験場設定や他の特別な配慮との関係から必ず事前に相談してください。）。

- (1) 相談の期限

平成21年11月30日(月)

- (2) 問い合わせ先

11 ページに記載してあります。

8 合格発表

- (1) **平成22年2月18日(木)10時** (予定)

本学総合研究棟 I 号館玄関及びホームページに合格者の受験番号を発表します。（ホームページアドレスは11 ページ参照）

- (2) 合格者には、合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付します。
- (3) 電話等による可否に関する問い合わせには、応じられません。

9 入学手続

- (1) 入学手続期間

平成22年3月8日(月)から平成22年3月26日(金)まで(必着)

- (2) 入 学 料 282,000円

- (3) 授 業 料 前期分 267,900円 (年額 535,800円)

注 上記の納付金は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。

- (4) その他の経費

学生教育研究災害傷害保険料等（正課・課外活動中における不慮の災害事故による学生の傷害に対する救済措置） 2,780円

10 個人情報の取扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人帯広畜産大学保有個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期しています。
- (2) 出願時にお知らせいただいた氏名、住所等の個人情報については、入学者選抜、合格発表、入学手続、入学者選抜方法等における調査・研究及びこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (3) 入学者選抜で得られた試験成績の個人情報は、入学者選抜及び入学者選抜方法等における調査・研究を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の個人情報のうち、合格者のみ、入学後の教務関係（修学指導等）、学生支援関係（奨学金申請・授業料免除申請等）に関する業務及びこれらに付随する業務を行うために利用します。

帯広畜産大学大学院畜産学研究科修士課程・博士前期課程の案内

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本研究科は、人間と自然が共生する社会において「食の安全確保」に基本をおいた農畜産物生産から食品衛生及び環境保全に至る一連の教育研究を実践し、国際的に活躍できる研究者、大学教員、高度専門職業人の養成を目指しています。このような理念・目標のもとに、次のような人材を国内外に求めています。

1. 「食の安全確保」に関する諸問題に深い関心を持っている人
2. 国際感覚を身につけ、国際交流の舞台で活躍したいと思っている人
3. 多様な実務経験を有する社会人で、ブラッシュアップを期待する人
4. 職業現場で直面する諸問題について理解を深め、問題解決能力を高めた
いと思っている人

1 目 的

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授・研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

2 沿 革

昭和42年 6月 1日 大学院畜産学研究科修士課程（獣医学専攻、酪農学専攻、農産化学専攻）を設置

昭和44年 4月 1日 草地学専攻、農業工学専攻を設置

昭和51年 4月 1日 畜産経営学専攻を設置

昭和53年 4月 1日 畜産環境学専攻を設置

昭和57年 4月 1日 酪農学専攻を家畜生産科学専攻に改称

平成 2年 4月 1日 大学院畜産学研究科修士課程獣医学専攻を廃止

岐阜大学に、岐阜大学を設置大学として本学、岩手大学及び東京農工大学を構成大学とする「岐阜大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）」を設置

平成 6年 4月 1日 畜産学研究科修士課程の家畜生産科学専攻、農産化学専攻、草地学専攻、農業工学専攻、畜産経営学専攻及び畜産環境学専攻を畜産管理学専攻、畜産環境科学専攻及び生物資源化学専攻に改称

岩手大学を設置大学とする「岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）」に構成大学として参加（構成大学：岩手大学、弘前大学、山形大学、帯広畜産大学）

平成13年 4月 1日 生物資源化学専攻を生物資源科学専攻に改称

平成16年 4月 1日 畜産衛生学専攻（独立専攻）を設置

3 専攻の内容

◎畜産生命科学専攻

成熟化した国際社会における畜産で重視される動物福祉や環境保全を踏まえ、家畜の生産性向上を中心とした家畜の生理機構の基礎から応用までの高度な知識と技能を修得することを目標とします。生体内部のマイクロレベル，個体を対象としたマクロレベル，さらに周囲環境を含めた広範囲な生命科学的な研究領域から学ぶことによって，家畜とその周囲環境を総合的に理解し，畜産科学およびその関連分野への多角的な貢献ができる人材を養成します。

家畜生命科学コース

生命科学の進歩と生産技術の進化は畜産をより高度な産業へと変化させました。また世界的レベルでの環境・食糧問題や経済・貿易問題は，良質なタンパク生産技術として有史以前から人類の生業であった畜産を大きく変えつつあります。

本コースでは，家畜の生体機能，育種，繁殖，栄養，管理などの畜産専門科目を中心に，環境，経済，食糧などの最新知識を提供します。さらに実習や演習，研究活動を通して思考力，応用力を鍛える事で，様々な状況に柔軟に対応できる，これからの農畜産業を担って行く，幅広い知識を備えた専門職業人を育成します。

環境生態学コース

本コースでは，北海道の豊かな自然環境および広大な農畜産環境をモチーフに，様々な生態学の研究分野（群集生態学・景観生態学・行動生態学・分子生態学・保全生態学など）および環境適応を主題とした生命科学について教育を行います。生命と環境の関係を広い視野から多角的に捉え，その複雑かつ多様な機構を理解し，さらに，環境の保全と管理について科学的に熟慮・提案することができる社会的に有用な人材を育成することを目的とします。

◎食品科学専攻

食生活の高度化が進む中、食品科学の役割が益々重要になっていることを踏まえ、食品の一次機能を基礎に、二次機能を主眼とする食品加工・利用学分野と三次機能を主眼とする食品機能科学分野の高度な知識と技能を習得することを目標とします。有機化学，生物化学，微生物学，分子生物学を基礎として，食品科学に関する高度な知識と技能を理解し，農畜産物へのバイオプロセスの応用や食品成分の生体に及ぼす機能性を解明できる人材を養成します。

食品加工・利用学コース

本コースでは，食品の一次機能を基礎に，二次機能を主眼とする食品加工・利用学分野の高度な知識と技能の習得を目標とします。即ち，乳・乳製品や食肉・食肉製品を含む畜産物の理化学的性質，その加工品の製造技術と安全性，農産物の貯蔵中の生理と品質，各種農産物の加工法，品質評価，最新加工技術，並びに農畜産食品に含まれる栄養素の化学と栄養性，生体調節機能や健康機能性について，食品加工・利用学に関する高度な教育と研究を行います。

食品機能科学コース

本コースでは，食品の一次機能を基礎に，三次機能を主眼とする食品機能科学分野の高度な知識と技能の習得を目標とします。即ち，食品成分の特性や醸造・発酵などの微生物機能を利用した食料・有用物質生産への応用，健康の維持・増進に関する食品成分の生体調節機能とその作用機序，機能性評価法の開発，遺伝子組換え食品の現状と展望，並びに長寿社会に向けた疾患予防について，食品機能科学に関する高度な教育と研究を行います。

◎資源環境農学専攻

食料問題がクローズアップされる中、先進国において著しく食料自給率の低いわが国において、食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための高度な知識と技能を修得することを目標とします。持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、植物の生理・生態・遺伝や土壌に関する高度な知識をもとに植物生産の量的・質的向上を図る人材や、機械的・生物学的手法や土木技術手法に関する高度な知識をもとに食料生産環境を改善する人材、さらに、食料生産に関わる経済学や経営学の高度な知識をもとに食料生産を経営・経済的に維持発展させることのできる人材を養成します。

環境植物学コース

本コースでは、国内有数の畑作・畜産地帯である北海道・十勝に立地する教育研究機関であることを最大限に活かし、環境保全型農畜産業を支える土づくりから、畑作物と飼料作物の育種と栽培、病虫害管理および草地利用までを総合的に理解することを目的とし、ラボワークでの基礎からフィールドワークでの実証に至る幅広い実践的な教育研究を通して、世界の農畜産業の基盤づくりを担える高度専門職業人を養成します。

農業環境工学コース

本コースでは、農業環境工学の基礎となる農業機械システム工学、農業農村工学および大気地盤情報学の理論と応用に関する高度な教育と研究を行います。農業機械システム工学では、農業エネルギー工学、農作業システム工学・資源循環工学にもとづく農畜産技術の高度化、農産物等の品質向上とコスト低減、バイオマス資源の利用技術等に関する教育・研究を行います。農業農村工学では、農地工学・農村計画学・農地保全学にもとづく農業生産基盤・農村生活環境の向上および環境と調和した農業に関して、大気地盤情報学では、農林地の気象・地盤・環境情報の評価に関する教育・研究を行います。

農業経済学コース

本コースでは、1) 農業経営とそれを支援する組織の持続的発展のための経営理論、2) 国民に安定的に食料を供給するための農業・食料政策の理論と、政策の効果を明らかにする手法、3) 農業・食料にかかわる実践的な研究を進めるために必要とされる高度な統計理論を教授します。単なる理論修得にとどまらず、これを具体的な課題に応用した場合の有効性と限界を意識しつつ、実践的な課題解決のための提言を示すことができる経営・経済感覚の陶冶のため、特に様々な手法に基づく社会調査とその分析を重要視しています。

◎畜産衛生学専攻

現在、我が国では、国際的な自由貿易の進展から、動物由来食品（動物及び乳・肉等）の安全性確保が緊急課題となっている。畜産衛生学専攻は、本学における「21世紀COEプログラム」を中心とした「畜産衛生学分野」における世界最高水準の研究組織を基盤として、「動物由来食品の安全確保」のための国際的高度専門職業人養成に特化した実践的教育研究を行う。本独立専攻では、畜産由来食品の安全性評価と生産から加工・流通に至る衛生管理について多角的な視点で捉えることを目標としており、このため、農畜産学分野の学部卒業生等に対しては、従来、獣医学分野で担っていた公衆衛生分野の観点から知識を補完し、また、獣医学分野の学部卒業生等に対しては、食品や農畜産物の生産や「食」を取り巻く最新の情報等を提供することにより、「食の安全確保」を担う専門家として問題解決型の卓越した研究能力と幅広い見識を備えた人材養成を行う。

動物医科学コース

畜産生産現場における健康で丈夫な家畜を飼養・繁殖管理して生産疾病の発生を抑え、結果として経済効率を改善し、合わせて健康な家畜の潜在能力を生理的な範囲内で最大限に引き出すための技術開発や理論に関する教育を行います。さらに、動物の感染症の原因となる寄生虫、原虫などの寄生体と宿主の相互作用を、双方の個体群から分子に至る様々なレベルで解明し、これに基づいた人畜共通原虫病の防御を目的とした治療・診断法、動物の健康及び疾病予防問題と栄養素の分子機能との関係について、動物医科学に関する総合的な教育を行います。

食品衛生学コース

安全で優れた畜産食品の安定的な供給と効率化を図るため、農場から食卓までの過程における危害因子について総合的な教育を行います。具体的には、細菌およびウイルスを中心とした病原微生物の治療・予防法、農場・食品加工上の衛生管理システムの経営的評価とマネジメント、国際貿易における動植物検疫制度の経済評価と制度設計、食品の機能性の追求や病原微生物の発症機構の解明による畜産食品のリスク評価手法、食品に関連する健康障害因子の分析などの食品衛生に関する総合的な教育・研究を行います。

環境衛生学コース

水系汚染、地球温暖化ガスの放散などエネルギー多投入型家畜生産システムを改善し、安全な食品を確保するために、効率的な循環型農畜産生産システムの構築やダニなどの衛生動物による感染症防除の確立など、国際的な感染症疫学調査からバイオマスの利活用までの環境衛生に関する総合的な教育を行います。

4 課程の修了及び学位の授与

本学大学院畜産学研究科修士課程及び博士前期課程に2年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文（畜産衛生学専攻は、特定の課題についての研究の成果を含む）の審査及び最終試験に合格した者を課程の修了者とし、畜産生命科学専攻・食品科学専攻・資源環境農学専攻は修士（農学）、畜産衛生学専攻は修士（畜産衛生学）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 教育職員免許状について（教職課程認定申請中）

一種免許状を取得し、又はその資格を有している者が、本学大学院の課程において修士の学位を有するか、又は1年以上在学し、所定の単位を修得したときは、「農業」又は「理科」の教科について教育職員免許状（専修免許状）を取得することができる。

なお、「畜産衛生学専攻」は教育職員免許状（専修免許状）は取得できません。

専攻別取得教育職員免許状の種類及び教科

専攻	免許状の種類	免許教科
畜産生命科学専攻	高等学校教諭専修免許状	農業又は理科
食品科学専攻	高等学校教諭専修免許状	理 科
資源環境農学専攻	高等学校教諭専修免許状	農業又は理科

6 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有するなどの事情により、標準年限を越えた一定の期間（4年以内）で計画的に教育課程を履修し課程を修了したい方に、標準修業年限の学費で、その長期の計画的な履修を認めるものです。

長期履修を希望する方は、あらかじめ指導担当予定教員と相談の上、原則として入学手続き時に申請書を提出してください。

◎ 出願書類の提出・問い合わせ先等

1 問い合わせ方法

電話又は郵便を利用してください。郵便による場合は、郵便番号・住所・氏名を明記し、所要額分の切手をはった返信用封筒を同封してください。

2 提出・問い合わせ先

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地

帯広畜産大学教育研究協力部入試課入学試験係

☎ 0155-49-5321（入学試験係直通）（月～金 8:30～17:15）

帯広畜産大学ホームページのご案内

ホームページには、入試情報、各専攻の紹介、大学の概要等が載っています。

アドレスは、次のとおりです。 < <http://www.obihiro.ac.jp> >